

四半期報告書

(第 14 期第 2 四半期)

自 平成 28 年 1 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日

株式会社フォーシーズホールディングス

福岡市中央区薬院一丁目 1 番 1 号

目次

頁

表紙

| | | |
|-----|----------------------------|----|
| 第一部 | 企業情報 | 2 |
| 第1 | 企業の概況 | 2 |
| 1. | 主要な経営指標等の推移 | 2 |
| 2. | 事業の内容 | 2 |
| 第2 | 事業の状況 | 3 |
| 1. | 事業等のリスク | 3 |
| 2. | 経営上の重要な契約等 | 3 |
| 3. | 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 | 3 |
| 第3 | 提出会社の状況 | 5 |
| 1. | 株式等の状況 | 5 |
| (1) | 株式の総数等 | 5 |
| (2) | 新株予約権等の状況 | 5 |
| (3) | 行使価格修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 | 5 |
| (4) | ライツプランの内容 | 5 |
| (5) | 発行済株式総数、資本金等の推移 | 5 |
| (6) | 大株主の状況 | 6 |
| (7) | 議決権の状況 | 7 |
| 2. | 役員の状況 | 7 |
| 第4 | 経理の状況 | 8 |
| 1. | 四半期連結財務諸表 | 9 |
| (1) | 四半期連結貸借対照表 | 9 |
| (2) | 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 10 |
| | 四半期連結損益計算書 | 10 |
| | 四半期連結包括利益計算書 | 11 |
| (3) | 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 | 12 |
| 2. | その他 | 16 |
| 第二部 | 提出会社の保証会社等の情報 | 17 |
| | [四半期レビュー報告書] | |

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 福岡財務支局長

【提出日】 平成28年6月14日

【四半期会計期間】 第14期第2四半期(自 平成28年1月1日 至 平成28年3月31日)

【会社名】 株式会社フォーシーズホールディングス

【英訳名】 4Cs Holdings Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 洲崎 智広

【本店の所在の場所】 福岡市中央区薬院一丁目1番1号

【電話番号】 092-720-5460

【事務連絡者氏名】 経営企画室 室長 山戸 明仁

【最寄りの連絡場所】 福岡市中央区薬院一丁目1番1号

【電話番号】 092-720-5460

【事務連絡者氏名】 経営企画室 室長 山戸 明仁

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | | 第13期 第2四半期連結 累計期間 | 第14期 第2四半期連結 累計期間 | 第13期 連結会計年度 |
|---|------|------------------------------|------------------------------|------------------------------|
| 会計期間 | | 自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日 | 自 平成27年10月1日 至 平成28年3月31日 | 自 平成26年10月1日 至 平成27年9月30日 |
| 売上高 | (千円) | 869,764 | 2,483,431 | 2,373,397 |
| 経常利益又は経常損失(△) | (千円) | △22,283 | 122,843 | 77,922 |
| 親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は 親会社株主に帰属する 四半期純損失(△) | (千円) | △25,347 | 40,362 | 31,621 |
| 四半期包括利益又は包括利益 | (千円) | △25,347 | 40,362 | 31,621 |
| 純資産額 | (千円) | 1,006,089 | 1,202,074 | 1,162,953 |
| 総資産額 | (千円) | 1,567,459 | 3,180,217 | 2,882,345 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損失 金額(△) | (円) | △3.87 | 5.88 | 4.79 |
| 潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 | (円) | — | — | — |
| 自己資本比率 | (%) | 63.5 | 37.5 | 40.0 |
| 営業活動によるキャッシュ・ フロー | (千円) | △12,746 | 140,921 | △144,921 |
| 投資活動によるキャッシュ・ フロー | (千円) | △1,349 | 6,547 | △591,141 |
| 財務活動によるキャッシュ・ フロー | (千円) | 23,067 | 102,228 | 623,174 |
| 現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 | (千円) | 846,862 | 973,289 | 724,983 |

| 回次 | | 第13期 第2四半期連結 会計期間 | 第14期 第2四半期連結 会計期間 |
|----------------------|-----|-----------------------------|-----------------------------|
| 会計期間 | | 自 平成27年1月1日 至 平成27年3月31日 | 自 平成28年1月1日 至 平成28年3月31日 |
| 1株当たり四半期純損失金額 (△) | (円) | △1.54 | △5.46 |

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、第13期第2四半期連結累計期間については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、第14期第2四半期連結累計期間及び第13期連結会計年度については希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期(当期)純利益又は四半期純損失」を「親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失」としております。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び関係会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府及び日銀による各種政策を背景に企業収益や雇用環境が改善するなど緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、中国をはじめとする新興国経済の減速、原油価格の下落やマイナス金利の導入など景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況のもと当社グループにおきましては、中長期的な更なる成長に向けて、各事業会社がそれぞれの特性に合わせた積極的な施策を推進してまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高2,483,431千円(前年同四半期比185.5%増)となり、営業利益132,907千円(前年同四半期は営業損失21,106千円)、経常利益122,843千円(前年同四半期は経常損失22,283千円)、親会社株主に帰属する四半期純利益40,362千円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失25,347千円)となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

①コミュニケーション・セールス事業

コミュニケーション・セールス事業におきましては、従来からの「新規顧客の獲得」と「既存顧客の確保」の視点に加え、新たに立ち上げた(ヘアケア)ブランド「DEAREST(ディアレスト)」による新たな顧客層の取り込みとリピート率の向上を図るための施策に取り組んでまいりました。また、季節に応じた新商品などを導入していく予定であり、積極的なマーケティング活動を行っております。これにより売上高902,533千円、セグメント利益64,451千円となりました。

②化粧品卸事業

前連結会計年度において、当社グループ入りした株式会社Cureが営む化粧品卸事業は、古くなった皮膚の角質を除去するための製品「ナチュラルアクアジェル Cure」及び岩塩を原料とする入浴剤「Cure バスタイム」の販売を行っており、市場でも高い評価を受け順調に売上を伸ばしております。これにより売上高300,216千円、セグメント利益109,196千円となりました。

③カラーコンタクトレンズ事業

前連結会計年度において、当社グループ入りしたクレイトン・ダイナミクス株式会社及び株式会社プランAが営むカラーコンタクトレンズ事業におきましては、取扱商品数の増加や取引先の増加等もあり順調に売上を伸ばしております。しかし、当第2四半期連結累計期間において一部の取引先に対する売掛金について貸倒引当金繰入額84,469千円を計上いたしました。これにより売上高1,281,180千円、セグメント損失41,624千円となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は3,180,217千円（前連結会計年度末2,882,345千円）、その内訳は流動資産2,348,736千円、固定資産831,480千円となり、前連結会計年度末に比べ297,872千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金の増加248,337千円、売掛金の増加230,342千円、貸倒引当金の増加84,477千円等によるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は1,978,142千円（前連結会計年度末1,719,391千円）、その内訳は流動負債1,000,756千円、固定負債977,385千円となり、前連結会計年度末に比べ258,751千円増加いたしました。これは主に、買掛金の増加108,868千円、短期借入金の増加120,000千円、未払法人税等の増加44,847千円等によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は1,202,074千円（前連結会計年度末1,162,953千円）となり、39,121千円増加いたしました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益40,362千円を計上したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、973,289千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、140,921千円（前年同四半期は12,746千円の使用）となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益123,923千円、減価償却費27,446千円、のれん償却額28,901千円、貸倒引当金の増加84,477千円、仕入債務の増加108,868千円、売上債権の増加230,342千円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、6,547千円（前年同四半期は1,349千円の使用）となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出9,445千円、敷金の回収による収入17,470千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、102,228千円（前年同四半期は23,067千円の獲得）となりました。

これは主に、短期借入金の純増減額120,000千円等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社は、当第2四半期連結累計期間に係る四半期報告書の提出にあたり、当社子会社の売掛金の一部の評価に時間を要し、当該四半期報告書の提出を延期する事態に至ったことを厳粛に受け止め、深く反省するとともに、調査報告書において指摘された事柄を踏まえ、早急に以下の事項に取り組んでまいります。

- ① ガバナンス体制の再構築
- ② 子会社管理の体制の強化と管理部門の牽制機能の強化
- ③ 取締役の相互監視、監督機能の強化
- ④ 監査役監査及び内部監査の強化

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数 (株) |
|------|--------------|
| 普通株式 | 12,000,000 |
| 計 | 12,000,000 |

② 【発行済株式】

| 種類 | 第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年3月31日) | 提出日現在 発行数(株) (平成28年6月14日) | 上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名 | 内容 |
|------|--|---------------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 普通株式 | 6,973,470 | 6,973,470 | 東京証券取引所 (市場第二部) | 単元株式数は100 株であります。 |
| 計 | 6,973,470 | 6,973,470 | — | — |

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成28年6月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金 増減額 (千円) | 資本金 残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|--------------------------|-----------------------|----------------------|--------------------|-------------------|----------------------|---------------------|
| 平成28年1月1日～ 平成28年3月31日 | — | 6,973,470 | — | 882,788 | — | 348,109 |

(6) 【大株主の状況】

平成28年3月31日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|-----------------|----------------------|--------------|------------------------------------|
| 井 康彦 | 福岡県福岡市中央区 | 1,339,280 | 19.20 |
| 株式会社ウェルホールディングス | 福岡県福岡市中央区天神2丁目14番8号 | 1,230,500 | 17.64 |
| ワイズコレクション株式会社 | 東京都港区元麻布2丁目14番9号 | 560,000 | 8.03 |
| 大坂 浩幸 | 福岡県福岡市西区 | 224,000 | 3.21 |
| 株式会社SBI証券 | 東京都港区六本木1丁目6番1号 | 112,400 | 1.61 |
| 鳥居 徹 | 熊本県熊本市中央区 | 100,090 | 1.43 |
| 日本証券金融株式会社 | 東京都中央区日本橋茅場町1丁目2番10号 | 79,200 | 1.13 |
| 堀内 昭彦 | 福岡県福岡市早良区 | 65,300 | 0.93 |
| 有限会社プロッシモ | 福岡県福岡市中央区大名2丁目9番27号 | 56,000 | 0.80 |
| 近藤 雅喜 | 愛知県日進市 | 50,000 | 0.71 |
| 計 | — | 3,816,770 | 54.73 |

(注) 上記のほか、自己株式が104,970株あります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成28年3月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|----------------|----------|----|
| 無議決権株式 | — | — | — |
| 議決権制限株式(自己株式等) | — | — | — |
| 議決権制限株式(その他) | — | — | — |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 104,900 | — | — |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 6,777,000 | 67,770 | — |
| 単元未満株式 | 普通株式 91,570 | — | — |
| 発行済株式総数 | 6,973,470 | — | — |
| 総株主の議決権 | — | 67,770 | — |

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄には、証券保管振替機構名義の株式100株(議決権1個)が含まれております。
 2. 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己株式70株及び証券保管振替機構名義の株式50株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成28年3月31日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%) |
|-------------------|---------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (株)フォーシーズホールディングス | 福岡市中央区薬院 一丁目1番1号 | 104,900 | — | 104,900 | 1.50 |
| 計 | — | 104,900 | — | 104,900 | 1.50 |

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成28年1月1日から平成28年3月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成27年10月1日から平成28年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成27年9月30日) | 当第2四半期連結会計期間 (平成28年3月31日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 975,201 | 1,223,538 |
| 売掛金 | 589,169 | 819,512 |
| 商品及び製品 | 234,230 | 262,387 |
| 原材料及び貯蔵品 | 1,344 | 4,751 |
| その他 | 208,405 | 123,067 |
| 貸倒引当金 | △43 | △84,521 |
| 流動資産合計 | 2,008,307 | 2,348,736 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 22,476 | 31,864 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 312,231 | 283,330 |
| 顧客関連資産 | 437,423 | 420,269 |
| その他 | 63,982 | 58,091 |
| 無形固定資産合計 | 813,636 | 761,691 |
| 投資その他の資産 | 37,923 | 37,925 |
| 固定資産合計 | 874,037 | 831,480 |
| 資産合計 | 2,882,345 | 3,180,217 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 165,804 | 274,672 |
| 短期借入金 | 240,000 | 360,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 128,548 | 135,688 |
| 未払法人税等 | 19,707 | 64,554 |
| 賞与引当金 | 11,201 | 10,020 |
| 返品調整引当金 | 1,583 | 935 |
| 株主優待引当金 | 11,698 | 872 |
| その他 | 152,437 | 154,013 |
| 流動負債合計 | 730,980 | 1,000,756 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 970,906 | 946,517 |
| 資産除去債務 | 11,613 | 11,635 |
| その他 | 5,891 | 19,233 |
| 固定負債合計 | 988,410 | 977,385 |
| 負債合計 | 1,719,391 | 1,978,142 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 882,788 | 882,788 |
| 資本剰余金 | 348,109 | 348,109 |
| 利益剰余金 | △49,141 | △8,778 |
| 自己株式 | △29,414 | △29,576 |
| 株主資本合計 | 1,152,342 | 1,192,543 |
| 新株予約権 | 10,611 | 9,531 |
| 純資産合計 | 1,162,953 | 1,202,074 |
| 負債純資産合計 | 2,882,345 | 3,180,217 |

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日) |
|---------------------------------------|--|--|
| 売上高 | 869,764 | 2,483,431 |
| 売上原価 | 209,157 | 1,414,648 |
| 売上総利益 | 660,607 | 1,068,782 |
| 返品調整引当金戻入額 | 1,268 | 1,583 |
| 返品調整引当金繰入額 | 812 | 935 |
| 差引売上総利益 | 661,063 | 1,069,430 |
| 販売費及び一般管理費 | ※ 682,169 | ※ 936,522 |
| 営業利益又は営業損失(△) | △21,106 | 132,907 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 128 | 128 |
| 為替差益 | 1,032 | - |
| 受取手数料 | - | 1,588 |
| その他 | 72 | 1,389 |
| 営業外収益合計 | 1,233 | 3,106 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 2,165 | 9,653 |
| その他 | 245 | 3,517 |
| 営業外費用合計 | 2,411 | 13,170 |
| 経常利益又は経常損失(△) | △22,283 | 122,843 |
| 特別利益 | | |
| 新株予約権戻入益 | - | 1,080 |
| 特別利益合計 | - | 1,080 |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△) | △22,283 | 123,923 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 2,236 | 63,609 |
| 法人税等調整額 | 826 | 19,951 |
| 法人税等合計 | 3,063 | 83,560 |
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | △25,347 | 40,362 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△) | △25,347 | 40,362 |

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日) |
|-------------------|--|--|
| 四半期純利益又は四半期純損失(△) | △25,347 | 40,362 |
| 四半期包括利益 | △25,347 | 40,362 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | △25,347 | 40,362 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | - | - |

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日) |
|-------------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△) | △22,283 | 123,923 |
| 減価償却費 | 5,795 | 27,446 |
| のれん償却額 | 18,628 | 28,901 |
| 貸倒引当金の増減額(△は減少) | △145 | 84,477 |
| 賞与引当金の増減額(△は減少) | △624 | △1,181 |
| 返品調整引当金の増減額(△は減少) | △455 | △647 |
| 株主優待引当金の増減額(△は減少) | △2,546 | △10,826 |
| 受取利息及び受取配当金 | △128 | △128 |
| 支払利息 | 2,165 | 9,653 |
| 新株予約権戻入益 | - | △1,080 |
| 売上債権の増減額(△は増加) | 32,078 | △230,342 |
| たな卸資産の増減額(△は増加) | 4,112 | △31,563 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | △40,398 | 108,868 |
| その他 | △1,012 | 61,019 |
| 小計 | △4,815 | 168,519 |
| 利息及び配当金の受取額 | 150 | 128 |
| 利息の支払額 | △2,115 | △9,617 |
| 法人税等の支払額 | △5,965 | △18,109 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △12,746 | 140,921 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △599 | △9,445 |
| 無形固定資産の取得による支出 | △720 | △1,180 |
| 敷金の回収による収入 | - | 17,470 |
| その他 | △29 | △298 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △1,349 | 6,547 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の純増減額(△は減少) | - | 120,000 |
| 長期借入れによる収入 | 54,000 | 50,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △30,249 | △67,249 |
| リース債務の返済による支出 | △461 | △360 |
| その他 | △222 | △161 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 23,067 | 102,228 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 1,032 | △1,391 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | 10,002 | 248,306 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 836,859 | 724,983 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | ※ 846,862 | ※ 973,289 |

【注記事項】

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等
を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資
本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしま
した。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取
得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更い
たします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行って
おります。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財
務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

当第2四半期連結累計期間の四半期連結キャッシュ・フロー計算書においては、連結範囲の変動を伴わない子会社
株式の取得又は売却に係るキャッシュ・フローについては、「財務活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載し、
連結範囲の変動を伴う子会社株式の取得関連費用もしくは連結範囲の変動を伴わない子会社株式の取得又は売却に
関連して生じた費用に係るキャッシュ・フローは、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の区分に記載する方法に変更
しております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事
業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から
将来にわたって適用しております。

なお、当第2四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年10月1日 至 平成28年3月31日) |
|----------|--|--|
| 広告宣伝費 | 192,725千円 | 186,981千円 |
| 給料手当 | 134,023 | 168,350 |
| 賞与引当金繰入額 | 12,879 | 10,020 |
| 貸倒引当金繰入額 | △137 | 84,477 |

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次の
とおりであります。

| | 前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年10月1日 至 平成27年3月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年10月1日 至 平成28年3月31日) |
|----------------------------------|--|--|
| 現金及び預金勘定 預入期間が3か月を超える 定期預金 | 1,047,080千円 △200,217 | 1,223,538千円 △250,248 |
| 現金及び現金同等物 | 846,862 | 973,289 |

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成26年10月1日至平成27年3月31日)

当社グループは、コミュニケーション・セールス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第2四半期連結累計期間(自平成27年10月1日至平成28年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | 調整額 | 四半期連結 損益計算書 計上額 |
|-----------------------|----------------------|------------|-------------------|-----------|------|-----------------------|
| | コミュニケーション・セ ールス事業 | 化粧品 卸事業 | カラーコンタク トレンズ事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 902,533 | 299,717 | 1,281,180 | 2,483,431 | — | 2,483,431 |
| セグメント間の 内部売上高又は振替高 | — | 498 | — | 498 | △498 | — |
| 計 | 902,533 | 300,216 | 1,281,180 | 2,483,930 | △498 | 2,483,431 |
| セグメント利益又は損失 (△) | 64,451 | 109,196 | △41,624 | 132,023 | 884 | 132,907 |

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

| 利益 | 金額 |
|-----------------|---------|
| 報告セグメント計 | 132,023 |
| 全社収益(注)1 | 75,200 |
| 全社費用(注)2 | △76,363 |
| その他の調整額 | 2,047 |
| 四半期連結損益計算書の営業利益 | 132,907 |

(注) 1. 全社収益は、当社におけるグループ会社からの経営指導料であります。

2. 全社費用は、当社における持株会社運営に係る費用であります。

3. 報告セグメントの変更に関する事項

当社グループは、前第2四半期連結累計期間においては、「コミュニケーション・セールス事業」の単一セグメントでありましたが、新規の子会社である株式会社Cureが平成27年7月1日付で事業を譲り受けたことに伴い、「化粧品卸事業」を報告セグメントに追加し、さらに平成27年8月1日付でクレイトン・ダイナミクス株式会社を株式交換により連結子会社としたことから「カラーコンタクトレンズ事業」を報告セグメントに追加しました。これにより、前連結会計年度より、当社グループの報告セグメントは、「コミュニケーション・セールス事業」、「化粧品卸事業」及び「カラーコンタクトレンズ事業」の3つの報告セグメントとなりました。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成26年10月1日 至平成27年3月31日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成27年10月1日 至平成28年3月31日) |
|--|--|--|
| 1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額(△) | △3円87銭 | 5円88銭 |
| (算定上の基礎) | | |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は 親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△) (千円) | △25,347 | 40,362 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | — | — |
| 普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する 四半期純損失金額(△)(千円) | △25,347 | 40,362 |
| 普通株式の期中平均株式数(千株) | 6,545 | 6,868 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 り四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったもの の概要 | — | — |

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、前第2四半期連結累計期間については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、当第2四半期連結累計期間については、希薄化効果を有する潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年6月14日

株式会社フォーシーズホールディングス
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

| | | | |
|--------------------|-------|---------|---|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 内 藤 真 一 | Ⓜ |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 野 澤 啓 | Ⓜ |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 | 公認会計士 | 池 田 徹 | Ⓜ |

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社フォーシーズホールディングスの平成27年10月1日から平成28年9月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成28年1月1日から平成28年3月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年10月1日から平成28年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社フォーシーズホールディングス及び連結子会社の平成28年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。